RACE REPORT

JapaneseEnduranceRace SuperTaikyu

ENEOS BRIDGESTONE

AutoLabo

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE
第7戦 S耐FINAL大感謝祭

2026年11月14日～11月15日 / 富士スピードウェイ

前回の岡山からわずか3週間のインターバルを経て、2026年シーズンはいよいよ最終戦を迎えた。スイフトスポーツの戦闘力アップの効果は前戦の岡山で実証できたものの、岡山のテクニカルなレイアウトでは高回転域のパワーバンドから外れることが多く、どちらかというとスイフトスポーツとは相性が悪いコースであった。今回の富士スピードウェイは、みなさんご存知の通り世界有数の長さを誇る1,475mの最長直線をもつ高速レイアウトのコース。スイフトスポーツにとって相性が良いと思われるコースだ。
AutoLaboのスイフトスポーツは今シーズンを通して重ねてきた成熟の成果を残すことができるのか…最終戦が幕をあける。

本戦のマシン＆ドライバー ラインナップ



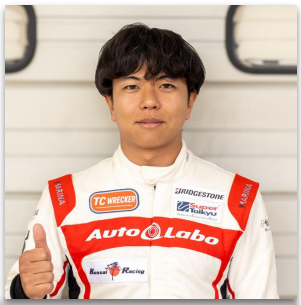
ST-4クラス No.290
AutoLabo Racing スイフトスポーツ



Aドライバー
西村 和則



Bドライバー
伊藤 大輔



Cドライバー
茂利 大輔



ST-5Fクラス No.291
AutoLabo Racing 素ヤリス



Aドライバー
横尾 優一



Bドライバー
森川 なるお



Cドライバー
安原 優弥

11/13(金)専有走行

レースウィーク初日は快晴のドライコンディションのもと、路面とセットアップの確認から始まった。この日は午前と午後それぞれに90分ずつの専有走行枠が設定された。
スイフトスポーツはまずは伊藤大輔選手から出発し、西村選手・茂利選手が乗り換えながら車両のセット確認を行った。大きな課題は岡山から引き続き、跳ねがおさまらなくなる現象。続いて、Aコーナーや100Rでのオーバーステア挙動だ。前後のスタビライザーやダンパーの減衰力を変更しながら、最適なバランスに近づけていった。傾向としてはスタビライザーの変更は影響が大きく極端な挙動に陥りやすく、減衰で調整していくと改善傾向が見られた。タイムとしては茂利選手が1分58秒台、伊藤選手が57 秒台を記録し、前回の富士24時間よりも平均1.5秒程度のタイムアップとなった。
素ヤリスは安定のヤリスカップドライバー陣の顔ぶれ。マシンコンディションは安定しており、各ドライバーは習熟を重ね、Bドライバーの森川選手が2分11秒の光る速さを見せた。



AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service Ryoso
香川トヨタ
光自動車
Triple R
YOSHINO MOTORS
Ride
KTC
Miraiz

RACE REPORT

JapaneseEnduranceRace SuperTaikyu

ENEOS BRIDGESTONE

AutoLabo

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

11/14(土) 予選

この日のスケジュールは午前に40分のフリー走行、午後にはA・Bドライバー予選であった。
Cドライバー予選が無い代わりに、午前のフリー走行でCドライバーは基準タイムをクリアしておく必要がある。
スイフトスポーツは、茂利選手がブレーキの熱入れとセットアップを兼ねて出走。セッションの途中でフロントスタビライザーを変更したがあまりメリットが感じられず、元に戻した後は西村選手が挙動をチェックした。茂利選手のタイムはCドライバー間でクラス8位だった。
素ヤリスは森川なるお選手が2分10秒フラットを記録。クラス5位のNOPRO デミオまでわずか1秒まで肉薄した。

午後には予定通りA・Bドライバー予選が実施された。
スイフトスポーツはAドライバー西村選手が出走。2日間で詰めてきたセッティングが新品タイヤとマッチし、1分57秒771のタイムを記録。クラス6位となった。
Bドライバー予選は伊藤大輔選手が神がかり的な走りを見せつけた。#3 ENDLESS GR86のスリップストリームを活用しながら、驚異の1分55秒811を記録。クラス3位に爪痕を残し、スイフトスポーツがGR86・ロードスターと同等の速さを秘めていることを示した。
素ヤリスはAドライバー横尾選手が2分11秒286を記録。Bドライバー森川選手は2分9秒895という驚異のラップを記録した。



▲白熱の予選でピットは大興奮



▲雨量が多く決勝レースは中止された

11/15(日) 決勝

決勝日は朝から大雨。前夜の段階から、STMO（大会運営）では安全を最優先するため、様々なレース実施案の検討が行われていた。
決勝レースは予定の時刻にセーフティカー先導でスタートしたものの、やはりコンディションの回復は見込めず、3LAP後に赤旗中断。そのままレース終了となった。
スイフトスポーツは過去最高のクラス4位、素ヤリスはクラス6位となった。



代表 **國松 宏二**

代表コメント

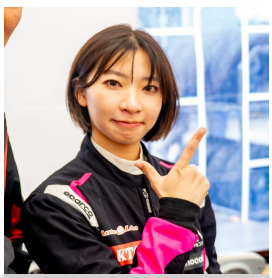
スイフトスポーツは前回の岡山で大幅なパワーアップを果たしました。しかし、岡山国際のコースレイアウトと決勝の雨との相性がよくありませんでした。今回の富士は、スイフトスポーツのパワーを余すことなく発揮できる相性の良いステージだったと思います。
それでもセットアップは簡単ではなく、コーナリングで跳ねてしまう現象やオーバーステアの改善のため、ドライバー3人と苦心しながらセットアップを重ねました。その苦労が、予選4位という結果に結実したと思います。残念ながら決勝は悪天候で中止となってしまい、不完全燃焼…という気持ちがないといえば嘘になりますが、決勝4位という過去最高のリザルトを残すことができました。
まだまだ煮詰めるべきところは多いですが、来年はスイフトスポーツがST-4クラスで本格的に戦う一年になると思います。そして素ヤリスやS耐チャレンジも含め、チーム体制の拡充や今後の展望に向けた新たな動きも加速していきます。今後のAutoLaboもぜひ楽しみにしていてください。

「S耐チャレンジ」第 3戦にマネージャー 2人が参戦！

今年から本格始動したエントリーカテゴリーである「S耐チャレンジ」第3戦が開催され、前回に引き続きマネージャー2人がヤリスで参戦。ヤリスカップカーによって争われるSC-Yクラスは参加台数が14台と多く、加えてヤリスカップで活躍する選手や、富士を知り尽くしたベテランも参戦する激戦のクラスとなった。
11/14(土)に行われた予選はA・Bドライバーのタイムを合算する形式で行われ、クラス10位を獲得。決勝での追い上げが期待された。
ところが、11/15(日)の決勝は雨。事前に雨での練習ができていない2人にとって、ぶっつけ本番でのレインコンディションとなった。
スタートドライバーはMayuが務めた。決勝が始まると、コース上はスピン車両が多発する荒れた展開となったが、そんな中でもMayuは安定したたくましい走りを披露。ポジションアップしてBドライバーのももはにバトンを繋いだ。ももはは慣れないコンディションの中、自らを奮い立たせてなんとか完走。結果は9位となった。
来年からはS耐チャレンジの開催回数が増えることが計画されている。



Aドライバー
箱入娘*Mayu



Bドライバー
雨音 ももは

AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service Ryoso

香川トヨタ

光自動車

Triple R

YOSHINO MOTORS

Ride

KTC

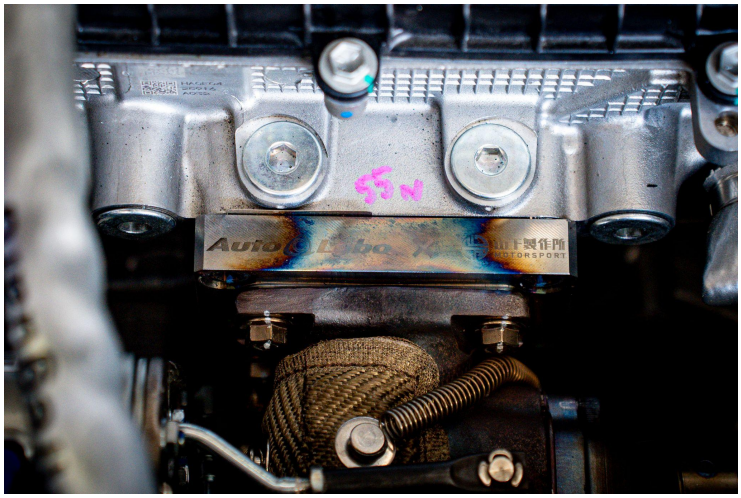
Miraiz

Auto Labo


KOKUSAI GROUP
290
Ryoso
Auto Labo
MTG




NISSAN
NISSAN


Auto Labo


ST5
Auto Labo
291


Arai
TOYOTA GAZOO Racing
BRIDGESTONE
D.ITO


ST4
Ryoso
290
Auto Labo

Auto Labo


291


ST4
290
BRIDGESTONE
nepros


D-TEC


KOKUSAI
SPORTS TEAM
ST5
BRIDGESTONE


ST4
Ryoso
290
Auto Labo




YOKOHAMA
Auto Labo

Auto Labo


OMP


OMP
BRIDGESTONE


ENEOS
Ryoso
290
Auto Labo




ENEOS
Ryoso
Auto Labo


RED FLAG
2317


SANKO
KAGAWA TOYOTA


SANKO
KAGAWA TOYOTA
290
Auto Labo

Auto Labo









